

町政を問う（一般質問）

Q A 1

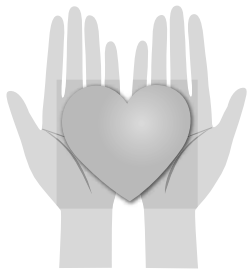
問 共生社会へのたゆみない努力を偏見と差別の一掃を図れ

答 患者・家族のみなさまの気持ちを第一に



前野由和議員

ハンセン病家族訴訟に関する国の責任が確定し、改正ハンセン病問題基本法が制定された。いまだに残っている差別と偏見を無くするため、町はどのように取り組むのか。



に伝える仕組み作りなど、今後対応していけるのか。

▽岩崎憲郎町長

災害への対応は事前に行動することが大切で、住民に正確な情報を伝え行動してもらうことがリスクを減らすことに繋がる。万全の対応を常に求め、繰り返し取り組むことが必要だ。

▽前野由和議員

避難所の状況があまり良くなく、段差解消、手すりの設置、トイレの洋式化、テレビの設置などが必要と思うが、今後対応できるのか。

▽岩崎憲郎町長

避難期間の長短はあるが、地域で対応するという視点での住民の理解のもと、必要なものは順次整備する。

Q A 2

問 小中一貫教育とは課題解決への方策を図れ

答 理解を進めることに努める

▽前野由和議員

小中一貫教育義務教育学校開校に向けて計画が進んでいるが、実施動機としてのメリットは何か。

また、短期間の取り組みなので、教育効果という点では長期間経たないと結果は出てこないと思うが、デメリットは何があるか。

▽池添修一教育長

メリットは、9年間一貫した教育目標、教育方針による系統的、計画的な指導ができ、カリキュラムの柔軟な編成、実施ができること。教育課程を自由に編成すること。多様な学年交流による豊かな人間性と高い志を育成



池添修一教育長

小中学校の道徳の授業の中で、しっかりとした教育をしていく。

Q A 4

問 今後の林業政策を問う100年の森づくり構想は実現されているか

答 林業の魅力を取り戻す



小笠原妙子議員

森林整備を重点施策として、大豊町まち・

ひと・しごと創生総合戦略では基本目標に地域資源を活用し安定した雇用を創出すると設定し、取り組んでいるが林業施策の現状を問



完成間近のストックヤード

できることなどがある。

デメリットは、小中学校の免許を保有する教職員の確保である。

▽前野由和議員

自己肯定意識の成長を阻害するとか、リーダーシップや自主性を養う機会を奪うのではないが、転校の不安などの課題を解決する方策を検討し、説明していくよう要請する。

▽池添修一教育長

5・4制の各区切りにおいて、リーダーシップや自己肯定感の成長を感じさせる教育を進めていく。

う。

▽岩崎憲郎町長

本町の林業生産額は県下市町村で4番目である。山の仕事の魅力を取り戻し、可能性を感じる産業にしていいため、森林を活かす取り組みを進める。

▽小笠原妙子議員

計画が軌道に乗り安定的に循環し、持続可能な林業環境が創出されてこそ100年の森構想が実現されるのではないか。今後の林業行政をどのように遂行するのか。

▽岩崎憲郎町長

森林環境贈与税を活用し可能性を感じる環境整備をし、やりがいの持てる林業を目指し、雇用の拡大にも繋げる取り組みを積極的に進める。

▽岩崎憲郎町長
児童生徒が減少する中で、行政、地域それ

ぞれの立場で協力し、教育の環境を充実していくことが大切だ。

Q A 3

問 タイムラインの運用は地域からの情報を活かせ

答 地域コミュニティの再生から

▽前野由和議員

最近の豪雨等が、同じ町内でも場所により

雨量が極端な違いがあることを経験した。上流の情報を下流の地域



立川地区タイムライン

Q A 5

問 本町の情報発信力を問う積極的に情報発信ができていますか

答 努力している

▽小笠原妙子議員

ホームページの内容が乏しいという指摘がある。情報発信をしつかりやることで人材確保もでき、ふるさと納税額も伸びるのではないか。

▽岩崎憲郎町長

ホームページによる情報発信から、ふるさと納税などへの戦略的な取り組みに繋がるよう努力する。



大豊町ホームページ